

女子単決勝は、中国選手である陳夢と王曼昱の対戦となった。ラリー戦になれば、王の打点が早く威力ある両ハンド攻撃が決まるため、陳はフォア前へのショートサービス効果をj使ひミス誘う。ラリー戦になれば、意図的に打点を落としたバックハンドドライブで王のリズムを崩す。結果、4ゲーム目を落とすが陳が勝利し優勝を決めた。陳は2017年から出場しているグランドファイナル全てで優勝という偉業を達成した。

伊藤美誠は準決勝で優勝した陳と対戦。1ゲーム目を大逆転勝利で取るも、ゲームカウント4対1で敗れた。しかし素晴らしいプレーで観客を魅了。改めて実力を示した。佐藤瞳はリオ五輪金メダリストの丁寧と再び勝利。得点が離れても誇り粘り強いプレーをみせた。注目を集めた、石川佳純と平野美宇の世界ランキング争い。石川佳純は、現世界チャンピオンの劉詩雯と激しいラリー戦を演じるも敗戦。平野が勝利すれば、石川を上回ることができたが、王芸迪のスピードに屈し、ともに1回戦敗退。石川が2020年1月に発表される世界ランキングで、日本選手上位2名に入ることが決まり、3大会連続でシングルス代表の座を確実とした。

女子シングルス優勝 陳夢(中国)

準優勝 王曼昱(中国)



決定率の高いフォアハンド攻撃に加え、バックハンドでスピンを効かせたり、抑えたりと様々な球質を繰り出しミス誘い、3連覇を達成

体格を活かした両ハンド攻撃は大会唯一の威力。決勝は、レシーブからの展開でリズムが掴めなかった



伊藤美誠 (日本)



王芸迪 (中国)



陳幸同 (中国)

中国から「神球」と評される、相手が予測していないプレーを混ぜて得点をあげるなど、実力を示した

平野や孫穎莎を下すなど、前陣での早い両ハンド攻撃が良かった

安定したプレーで大層なプレイング。初戦では弱(シンがボール)をストレートで下した



劉詩雯 (中国)



佐藤瞳(日本)



孫穎莎 (中国)

ラリー戦に強く優勝した陳と大接戦を演じるが、敗戦

初戦で丁寧(中国)に勝利。伊藤との対戦でも積極的に攻撃を仕掛けミス誘った

スピードをラリー対決となるが、要所でミスとしてしまい敗戦

男子単決勝は、樊振東と馬龍の中国選手同士の対戦となった。樊はこれまでのバックハンド攻撃だけではなく、積極的にフォアハンドで攻撃を仕掛け、馬を圧倒し優勝を果たした。馬は、バックハンドでのラリーにミスが目立ち、優位に立てなかった。

張本智和は、準々決勝で許昕(中国)と対戦。コート全面をフォアハンドでカバーする許に対し、張本は、ロングサービス、今大会よかった短い回転サービスを使い試合を優位に進めると、ラリー戦でもコートに浅く落とし、許を前後に揺さぶり強打を防いだ。フルゲームとなり、マッチポイントを握るが最後の1本が取れず悔しい敗戦となった。水谷隼は初戦でカルデラノ(ブラジル)と対戦。1ゲームを奪うも敗戦。悔しい敗戦となった。

Men's Singles

男子シングルス優勝 樊振東

準優勝 馬龍



男子シングルス表格式
優勝・樊振東(中国)、準優勝・馬龍(ともに中国)

得意のバックハンド攻撃はもちろん、今大会は積極的にフォアハンドドライブを使い、得点を重ねた。「たくさんの方が応援に来てくれて嬉しい、感謝したい」

故障明けの影響もあり、らしくないミスが目立ったが、ここ一番のプレーは精度が高かった



梁靖崑 (中国)



許昕 (中国)



張本智和 (日本)

経験を積み安定した成績が出るように、敗れはしたが、馬龍に肉薄した試合内容だった

張本との激戦を制した許、手首を痛めている影響もあり凡ミスが目立った

世界ランキング1位の許昕との試合は、浅いボールをうまく混ぜてチャンスメイク。あと1本まで追い詰めた...



カルデラノ (ブラジル)



林昀儒 (チャイニーズタイペイ)



林高遠 (中国)

フットワークを活かした振り抜く両ハンド攻撃は威力十分

ボールタッチが良く、相手の強打への反応が良くミスが少なかった

バックハンド攻撃はもちろん、今回はフォアハンドでの連続攻撃も良かった

石川佳純



劉詩雯と対戦し、敗れてしまうものの、互角以上のラリーを展開した

平野美宇



ドライブのコース取りが鋭く得点をあげられるが、王の早い攻撃を上回ることができなかった

平野美宇・芝田沙季



前陣から素早い攻撃を展開するが、惜しくも敗れた

水谷隼



サーブからの攻撃がよかったが、強打をうまく返球することができなかった

今大会より導入された「VAR (ビデオ アシスタント レフリー)」画像は、劉詩雯がバックサイドからストレートに打球したラリーのもの。エッジと判定



ITTF STAR WORLDS



ユニフォーム姿と違うフォーマルな衣装で登場の中国選手

伊藤美誠



初のスターアワード参加の長崎美袖(左)・木原美悠



左から、馬龍、元サンリツの張雷(現・中国卓球協会副会長)、丁寧

大会前に年間活躍した選手たちに賞を贈る「スターアワード」。ニッタクプレゼンツの女子年間優秀選手賞には、劉詩雯(中国)が選ばれた

決勝	田志希 梁夏銀
10 6 6	

混合ダブルス

準々決勝	チュデソン 申裕斌 (韓国)
3 5 11	
劉詩雯 (中国)	ピスチ バラソバ (スロバキア)
10 9 7	
許昕 (中国香港)	フロール GASNIER (フランス)
7 6 6	
水谷隼 (日本)	SZUDI PERGEL (ハンガリー)
7 3 4	
林昀儒 (チャイニーズタイペイ)	準決勝
3 11 1	林昀儒 鄭怡靜 (チャイニーズタイペイ)
劉詩雯 (中国)	9 7 6 9
許昕 (中国香港)	黄鎮廷 杜凱琹 (中国香港)
9 2 13	
伊藤美誠 (日本)	決勝
9-6 3 8 9	水谷隼 伊藤美誠 (日本)

決勝	7 5 3
劉詩雯 (中国)	
準決勝	8-7 7 1
廖振珽 林昀儒 (チャイニーズタイペイ)	
準決勝	-2 8-7 5 10
廖振珽 林昀儒 (チャイニーズタイペイ)	
決勝	9 9 9
許昕 (中国)	
決勝	7 6-11 3
樊振東 (中国)	

女子ダブルス

準々決勝	孫穎莎 王曼昱 (中国)
7 11 7	
準決勝	孫穎莎 王曼昱 (中国)
9-6 9 6 4	
長崎美袖 木原美悠 (日本)	
9 9-5 4	
田志希 梁夏銀 (中国)	
準決勝	長崎美袖 木原美悠 (日本)
-3 4 3 12 12	
決勝	-8 3 6 8
田志希 梁夏銀 (中国)	

黄鎮廷 (中国香港)	8 6 6 6
鄭怡靜 (中国)	6 7 6 6 5
李尚洙 (韓国)	-4 4-7 8 9 4
陳幸同 (中国)	3 7 9 5
伊藤美誠 (日本)	-10 6-7 4 4 3 10
陳夢 (中国)	7-8-10-12 11 8 6
孫穎莎 (中国)	7-9-9 2 8 4
陳夢 (中国)	7 7-9 6-9 5 1
伊藤美誠 (中国)	7 7 11 5
王芸迪 (中国)	11 5 8-9 8
王曼昱 (中国)	6-7 7 5 4
陳夢 (中国)	-10 8 5 11 11
王芸迪 (中国)	9 3 8 3
陳夢 (中国)	9 6 6-9 6

男子シングル

ラウンド16	樊振東 5 16 10 7
林昀儒 7 9 11 9	
林高遠 4 6 8 1	
許昕 -5 8 10 7 8 4	
梁靖崑 11 9 8 4-8 4	
カルデラノ 6 9-12 4 6	
馬龍 -8 6-10 2 7 3	
林高遠 11 4 5 7	
許昕 6-13 5-3 9 11 11	
馬龍 -9 8-7 4-8 9 8	
樊振東 10 5 7-5 9	
樊振東 7-11 3 3-9 3	
馬龍 7 14 7-4 4 6	
樊振東 6 10 6-6 8	

男子ダブルス

準々決勝	梁靖崑 林高遠 (中国)
9-5 11 7	
決勝	劉詩雯 許昕 (中国)
-9 10 5-8 9	

準々決勝	孫穎莎 王曼昱 (中国)
7 7 9 5 1	
準決勝	孫穎莎 王曼昱 (中国)
9 3 8 3	
決勝	9 6 6-9 6

女子シングル

ラウンド16	劉詩雯 7 12 7 9
石川佳純 (日本)	

女子複は、孫穎莎・王曼昱(中国)の世界選手権優勝ペアに勝利した長崎美袖・木原美悠が優勝した。劣勢になっても、落ち着いてプレーし、強打ができない時は、コースを突き、次に繋げるプレーがよかった。また試合中の苦しい場面であっても、笑顔を見せ、強気にプレーしていたのも印象的。

男子複は、許昕・樊振東(中国)が、準決勝の同士討ち以外は他を圧倒。他国との実力差を感じた。混合複は、許昕・劉詩雯(中国)が実力を発揮し優勝。準優勝は、日本の水谷隼・伊藤美誠ペアが入った。

Doubles

男子ダブルス優勝 許昕・樊振東(中国)



安定した強さを発揮し優勝。樊は両ハンド攻撃を左右に打ち分けた

準優勝 廖振珽・林昀儒(チャイニーズタイペイ)



コンビネーションが良く、お互いの役割を理解しプレーしていた

女子ダブルス優勝 長崎美袖・木原美悠(日本)



準決勝で、世界チャンピオンペアに勝利すると、決勝もほぼ一方的な内容で勝利し、グランドファイナル初制覇

準優勝 田志希・梁夏銀(韓国)



混合ダブルス優勝 許昕・劉詩雯(中国)



決勝こそ2ゲーム先行されるが、3ゲーム目以降は、ギアを入れ替え逆転勝利をあげた

準優勝 水谷隼・伊藤美誠(日本)



ラリー戦に強く、伊藤の速攻プレーと水谷のラリー力よかった

Mixed